

先生と児童の意見から座席配置を考える

朝倉 梨奈

第1章 緒言

日本の小学校教育は、複数の課題や変化を抱えながら進展している。文部科学省の通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査によると、学習面や行動面で著しい困難を示すとされた児童生徒数の割合が小学校・中学校において8.8%であり、10年前の調査から増加したことが分かった⁽¹⁾。これは35人学級であれば1クラスあたり3人程度いることになる。この要因として特別支援教育に関する理解が進み、今まで見過ごされてきた困難のある子どもたちにより目を向けるようになったことや、子どもたちの生活習慣、取り巻く環境の変化などが挙げられる⁽¹⁾。

また、令和5年の文部科学省の日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査によると、公立小学校における日本語指導が必要な児童数が46,132人であり、平成20年の調査と比べて約2倍に増加したことが分かった⁽²⁾。

さらに、Society5.0時代の到来や、グローバル化などに伴い、子どもたちに必要とされるスキルや知識も多様化している。文部科学省は、児童生徒がICTを学習のツールのひとつとして使いこなし、学習に必要とする情報を収集・選択したり、正しく理解したり、創造したり、わかりやすく表現・伝達したりすることなどは、児童生徒にとって必要な能力であるとしている⁽³⁾。

こうした変化に対応するため、中央教育審議会は一人ひとりの学習者の特性やニーズに合わせて、最適な学びを提供する「個別最適な学び」と、学習者同士で問題解決に取り組む活動を通して、相互に学び合う「協働的な学び」を目指すべき「令和の日本型学校教育」の姿だと示した⁽⁴⁾。「令和の日本型学校教育」の構築に向けて、様々な指導方法や学習環境の整備も求められている⁽⁴⁾。なかでも子どもが多くの時間を過ごす教室の環境は、子どもたちに大きな影響を与える可能性があると考えられる。

ある調査によると、教室内の音環境（騒音の有無、空調の音、人の会話など）が子どもの学習効率に影響し、音声が見えに聞こえるような環境にすることで、学習パフォーマンスが向上する可能性があることが明らかになった⁽⁵⁾。また、教室のCO₂の濃度が集中力の低下に関連していることが確認された⁽⁶⁾。さらに、教室内のユニバーサルデザインに関わる研究では、通常の学級における教室環境や授業のユニバーサルデザイン化による子どもの集中力の高まりが示された⁽⁷⁾。これらの研究から、教室内の環境が子どもへ影響すると言える。

しかしながら、子どもの座席の配置に関する研究は少ない。子どもたちはほとんどの授業を教室で受けるため、座席の配置は子どもにより大きな影響を与える可能性があると考えられる。特に令和の日本型学校教育構築に向けて、座席の配置は単なる物理的要素ではなく、子ども同士のコミュニケーションや協働、学習意欲に深く関与する。また、一人ひとりの学習者に合わせて柔軟で多様な環境を整えることが大切である。そのためには、誰がどの席に座るべきなのか、誰がどんな席を好むのかを明らかにすることが必要である。しかし、児童の座席選好に関する論文も少ない。このような座席の配置に関する問題は、先生と児童の両方の意見を考慮する必要があるが、双方の意見が必ずしも一致するとは限らない。

そこで本研究では、教室内の座席配置について、先生側と児童側の意見を明らかにすること、児童の座席選好を明らかにすることを目的とした。これらを明らかにすることで、教室内の座席についての課題を見つけ、それらの改善策を検討することができる。また、それらを検討することで、現代の教育に求められている個別最適な学びや、協働的な学習の構築に向けてよりよい学習環境を提供することができると考えられる。よりよい学習環境を提供することで、これからの時代に求められる主体性や、問題解決能力など⁽⁸⁾を兼ね備えた子どもを育成できる。

第2章 方法

(1) 対象

市川市内の公立小学校3校の小学3年生から6年生の児童とその担任の先生を対象とした。回答者の内訳を表1に示す。

表 1 回答者内訳

	3 年生 (7 学級)	4 年生 (6 学級)	5 年生 (6 学級)	6 年生 (8 学級)	合計 (27 学級)
男子	89	93	86	103	371
女子	104	97	97	115	413
合計	193	190	183	218	784

(2) 調査期間

2024 年 10 月 8 日から 2024 年 10 月 17 日の計 10 日間であった。

(3) 手続き

事前に学校側に調査の趣旨説明を行い、担任教諭に質問用紙を配布した。指定期間中の各クラスの都合のよい日に、無記名のアンケート調査を実施してもらった。

(4) 調査内容

○児童を対象にした質問

図 1, 図 2, 図 3 のような座席配置が異なる 3 つの教室を示し、どの教室で授業を受けてみたいかをランキング形式で記入してもらった。同時に、1 位にその教室を選んだ理由の記述、1 位に選んだ教室の中で「一番座りたい席」の選択と、その理由の記述も求めた。また、好きな教科・嫌いな教科、誕生日を回答してもらった。さらに、児童の特性に関する質問 8 項目を 4 件法(「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」「どちらかと言えばそう思わない」「思わない」)で回答してもらった。質問 8 項目は以下の通りである。

- ・学校が好きだ
- ・勉強が好きだ
- ・授業が楽しい
- ・発表することが得意である
- ・友達が多い方である
- ・友達とおしゃべりするのが好きだ
- ・はずかしがり屋である
- ・元気が良い方だ

○先生を対象にした質問

これまでの担任歴、現在担任しているクラスの学年と人数を回答してもらった。また、児童と同様、図 1, 図 2, 図 3 を示し、現在のクラスの座席配置に最も近いものを選択してもらった。同時に、そのような座席配置にしている理由の記述も求めた。また、理想の座席配置の有無について回答してもらった。

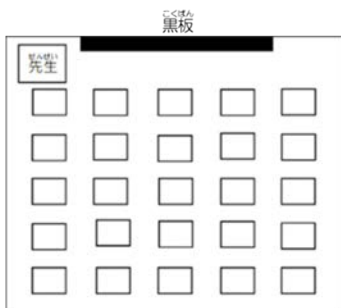


図 1 座席配置図 A パターン
(以下、「独立型」とする)

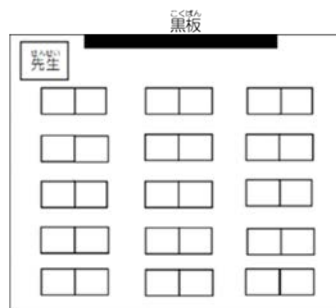


図 2 座席配置図 B パターン
(以下、「ペア型」とする)

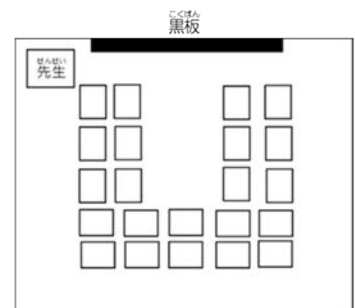


図 3 座席配置図 C パターン
(以下、「コの字型」とする)

(5) 統計処理

児童のアンケートの統計処理には、統計処理ソフト (IBM SPSS statics version22.0) を用いて、クロス集計からカイ二乗検定を行った。有意水準は 5% 未満とした。

第 3 章 結果

回答者 784 名のうち、全ての項目に不備なく回答した 609 名分を有効回答、分析対象とした。表 2 に分析対象の

内訳を、表3に有効回答率を示す。

表2 分析対象内訳

	3年生 (7学級)	4年生 (6学級)	5年生 (6学級)	6年生 (8学級)	合計 (27学級)
男子	69.0	64	70	75	278
女子	78	71	86	96	331
合計	147	135	156	171	609

表3 有効回答率

	3年生 (7学級)	4年生 (6学級)	5年生 (6学級)	6年生 (8学級)	合計 (27学級)
男子	77.5	68.0	81.3	72.8	74.7
女子	75.0	73.9	88.6	83.4	80.3
合計	76.1	71.0	85.2	78.4	77.6

第1節 座席配置パターン

(1) 学年

1位に選んだ座席配置パターンと学年の関係を検証するためにクロス集計して、カイ二乗検定を行った結果、有意性が認められた ($\chi^2(6) = 21.559$, $P < 0.001$, $V = 0.133$) (表4)。残差分析の結果、独立型を選んだ6年生 ($Z = 3.2$, $P < 0.05$)、ペア型を選んだ3年生 ($Z = 3.2$, $P < 0.05$) が有意に高い値を示した。一方で、独立型を選んだ3年生 ($Z = -2.9$, $P < 0.05$)、ペア型を選んだ6年生 ($Z = -3.5$, $P < 0.05$) が有意に低い値を示した (表4)。つまり、独立型は6年生に人気があり、3年生に不人気であること、ペア型は3年生に人気があり、6年生に不人気であることを意味している。

表4 1位に選んだ座席配置パターンと学年のクロス集計

選んだ座席配置 パターン		3 年生	4 年生	5 年生	6 年生	合計	P 値
A (独立型)	度数	44	45	69	86	244	< 0.05
	期待度数	58.9	54.1	62.5	68.5		
	調整済み残差	-2.9	-1.8	1.2	3.2		
B (ペア型)	度数	84	71	65	59	279	
	期待度数	67.3	61.8	71.5	78.3		
	調整済み残差	3.2	1.8	-1.2	-3.5		
C (コの字型)	度数	19	19	22	26	86	
	期待度数	20.8	19.1	22.0	24.1		
	調整済み残差	-0.5	0.0	0.0	0.5		
合計	度数	147	135	156	171	609	

(2) 性別

1位に選んだ座席配置パターンと児童の性別の関係を検証するためにクロス集計して、カイ二乗検定を行った結果、有意性は認められなかった ($\chi^2(2) = 2.018$, $P = 0.365$, $V = 0.058$) (表5)。

表5 1位に選んだ座席配置パターンと性別のクロス集計

選んだ座席配置 パターン		男子	女子	合計	P 値
A (独立型)	度数	116	128	244	NS
	期待度数	111.4	132.6		
	調整済み残差	0.8	-0.8		
B (ペア型)	度数	119	160	279	
	期待度数	127.4	151.6		
	調整済み残差	-1.4	1.4		
C (コの字型)	度数	43	43	86	
	期待度数	39.3	46.7		
	調整済み残差	0.9	-0.9		
合計	度数	278	331	609	

(3) 各学年と性別

1位に選んだ座席配置パターンと各学年の性別の関係を検証するためにクロス集計して、カイ二乗検定を行った結果、有意性は認められなかった (3年生: $\chi^2(2) = 1.312$, $P = 0.519$, $V = 0.094$) (4年生: $\chi^2(2) = 3.364$, $P = 0.186$, $V = 0.158$) (5年生: $\chi^2(2) = 0.290$, $P = 0.865$, $V = 0.043$) (6年生: $\chi^2(2) = 0.606$, $P = 0.738$, $V = 0.060$) (表6)。

表6 1位に選んだ座席配置パターンと各学年の性別のクロス集計

学年	選んだ座席配置 パターン		男子	女子	合計	P 値
3	A (独立型)	度数	23	21	44	NS
		期待度数	20.7	23.3		
		調整済み残差	0.8	-0.8		
	B (ペア型)	度数	36	48	84	
		期待度数	39.4	44.6		
		調整済み残差	-1.1	1.1		
	C (コの字型)	度数	10	9	19	
		期待度数	8.9	10.1		
		調整済み残差	0.5	-0.5		
	合計	度数	69	78	147	
4	A (独立型)	度数	23	22	45	NS
		期待度数	21.3	23.7		
		調整済み残差	0.6	-0.6		
	B (ペア型)	度数	29	42	71	
		期待度数	33.7	37.3		
		調整済み残差	-1.6	1.6		
	C (コの字型)	度数	12	7	19	
		期待度数	9.0	10.0		
		調整済み残差	1.5	-1.5		
	合計	度数	64	71	135	
5	A (独立型)	度数	30	39	69	NS
		期待度数	31.0	38		
		調整済み残差	-0.3	0.3		
	B (ペア型)	度数	29	36	65	
		期待度数	29.2	35.8		
		調整済み残差	-0.1	0.1		
	C (コの字型)	度数	11	11	22	
		期待度数	9.9	12.1		
		調整済み残差	0.5	-0.5		
	合計	度数	70	86	156	
6	A (独立型)	度数	40	46	86	NS
		期待度数	37.7	48.3		
		調整済み残差	0.7	-0.7		
	B (ペア型)	度数	25	34	59	
		期待度数	25.9	33.1	0.3	
		調整済み残差	-0.3	0.3		
	C (コの字型)	度数	10	16	26	
		期待度数	11.4	14.6		
		調整済み残差	-0.6	0.6		
	合計	度数	75	96	171	

(4) 誕生日

1位に選んだ座席配置パターンと児童の誕生日の関係を検証するためにクロス集計して、カイ二乗検定を行った結果、有意性は認められなかった ($\chi^2(6) = 7.557$, $P=0.272$, $V=0.079$) (表7)。

表7 1位に選んだ座席配置パターンと児童の誕生日のクロス集計

選んだ座席配置 パターン		4・5・6月	7・8・9月	10・11・12月	1・2・3月	合計	P 値
A (独立型)	度数	57	63	69	55	244	NS
	期待度数	62.1	60.9	65.7	55.3		
	調整済み残差	-1.0	0.4	0.6	-0.1		
B (ペア型)	度数	74	60	77	68	279	
	期待度数	71.0	69.6	75.1	63.2		
	調整済み残差	0.6	-1.8	0.3	0.9		
C (コの字型)	度数	24	29	18	15	86	
	期待度数	21.9	21.5	23.2	19.5		
	調整済み残差	0.6	2.0	-1.4	-1.2		
合計	度数	155	152	164	138	609	

(5) 好きな教科・嫌いな教科

1位に選んだ座席配置パターンと好きな教科および嫌いな教科の関係を検証するためにクロス集計して、カイ二乗

検定を行った結果、いずれも有意性は認められなかった（ $\chi^2(28) = 21.555$, $P=0.801$, $V = 0.133$ ）（ $\chi^2(22) = 18.965$, $P=0.674$, $V = 0.125$ ）（表8）。

表8 1位に選んだ座席配置パターンと好きな教科・嫌いな教科のクロス集計

質問内容	選んだ座席配置パターン	国語	算数	理科	社会	外国語	体育	総合	図書	図工	道徳	書写	音楽	学活	家庭科	なし	合計	P値
好きな教科	A (独立型)	度数 12 期待度数 10.0 調整済み残差 0.8	26 22.8 0.9	19 19.6 -0.2	18 16.0 0.7	5 4.0 0.6	76 79.7 -0.7	3 2.4 0.5	4 4.8 -0.5	36 37.3 -0.3	4 4.0 0.0	1 1.2 -0.2	25 26.0 -0.3	5 6.0 -0.5	7 8.0 -0.5	3 2.0 0.9	244	NS
	B (ペア型)	度数 9 期待度数 11.5 調整済み残差 -1.0	23 26.1 -0.9	25 22.4 0.8	14 18.3 -1.4	2 4.6 -1.7	97 91.2 1.0	2 2.7 -0.6	6 2.7 0.3	47 42.6 1.0	4 4.6 -0.4	1 1.4 -0.4	31 29.8 0.3	6 6.9 -0.5	12 9.2 1.3	0 2.3 -2.1	279	
	C (コの字型)	度数 4 期待度数 3.5 調整済み残差 0.3	8 8.0 0.0	5 6.9 -0.8	8 5.6 1.1	3 1.4 1.5	26 28.1 -0.5	1 0.8 0.2	2 1.7 0.3	10 13.1 -1.0	2 1.4 0.5	1 0.4 1.0	9 9.2 -0.1	4 2.1 1.4	1 2.8 -1.2	2 0.7 1.7	86	
	合計	度数 25	57	49	40	10	199	6	12	93	10	3	65	15	20	5	609	
嫌いな教科	A (独立型)	度数 38 期待度数 46.1 調整済み残差 -1.7	96 93.8 0.4	18 13.2 1.7	27 28.4 -0.4	16 13.6 0.9	8 10.0 -0.8	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	7 5.6 0.8	7 9.2 -1.0	7 5.6 0.8	4 4.4 -0.3	0 0.0 0.0	3 2.0 0.9	13 12.0 0.4	244	NS
	B (ペア型)	度数 56 期待度数 52.7 調整済み残差 0.7	102 107.2 -0.9	15 15.1 0.0	36 32.5 0.9	15 15.6 -0.2	13 11.5 0.6	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	6 6.4 -0.2	11 10.5 0.2	4 6.4 -1.3	6 5.0 0.6	0 0.0 0.0	1 2.3 -1.2	14 13.7 0.1	279	
	C (コの字型)	度数 21 期待度数 16.2 調整済み残差 1.4	36 33.0 0.7	0 4.7 -2.4	8 10.0 -0.7	3 4.8 -0.9	4 3.5 0.3	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	1 2.0 -0.8	5 3.2 1.1	3 2.0 0.8	1 1.6 -0.5	0 0.0 0.0	1 0.7 0.4	3 4.2 -0.7	86	
	合計	度数 115	234	33	71	34	25	0	0	14	23	14	11	0	5	30	609	

(6) 児童の特性

1位に選んだ座席配置パターンと児童の特性に関する質問8項目それぞれの関係を検証するためにクロス集計して、カイ二乗検定を行った結果、項目1, 4, 5, 6, 7, 8に有意性が認められた（学校が好きだ： $\chi^2(6) = 17.496$, $P = 0.008$, $V = 0.120$ ）（勉強が好きだ： $\chi^2(6) = 6.337$, $P = 0.387$, $V = 0.072$ ）（授業が楽しい： $\chi^2(6) = 5.786$, $P=0.448$, $V = 0.069$ ）（発表することが得意である： $\chi^2(6) = 16.295$, $P = 0.012$, $V = 0.116$ ）（友達が多い方である： $\chi^2(6) = 20.419$, $P = 0.002$, $V = 0.129$ ）（お友達とおしゃべりするのが好きだ： $\chi^2(6) = 16.387$, $P = 0.012$, $V = 0.116$ ）（はずかしがり屋である： $\chi^2(6) = 17.335$, $P = 0.008$, $V = 0.119$ ）（元気が良い方だ： $\chi^2(6) = 22.820$, $P<0.001$, $V = 0.137$ ）（表9）。各項目の残差分析の結果は下記の通りである。

項目1 学校が好きだ

独立型の中で「そう思う」（ $Z = -3.2$, $P<0.05$ ）が有意に低い値、「思わない」（ $Z = 2.4$, $P<0.05$ ）が有意に高い値を示した。ペア型の中で「そう思う」（ $Z = 2.6$, $P<0.05$ ）が有意に高い値、「どちらかと言えばそう思わない」（ $Z = -2.0$, $P<0.05$ ）「思わない」（ $Z = -2.6$, $P<0.05$ ）が有意に低い値を示した。つまり、独立型は「思わない」と答えた人に人気があり、「そう思う」と答えた人に不人気であること、ペア型は「そう思う」と答えた人に人気があり、「どちらかと言えばそう思わない」「思わない」と答えた人に不人気であることを意味している。

項目4 発表することが得意である

独立型の中で「そう思う」（ $Z = -3.0$, $P<0.05$ ）が有意に低い値を示した。ペア型の中で「そう思う」（ $Z = 2.5$, $P<0.05$ ）が有意に高い値を示した。コの字型の中で「どちらかと言えばそう思う」（ $Z = 2.3$, $P<0.05$ ）が有意に高い値を示した。つまり、独立型は「そう思う」と答えた人に不人気であること、ペア型は「そう思う」と答えた人に人気があること、コの字型は「どちらかと言えばそう思う」と答えた人に人気があることを意味している。

項目5 友達が多い方である

独立型の中で「そう思う」（ $Z = -4.3$, $P<0.05$ ）が有意に低い値、「どちらかと言えばそう思う」（ $Z = 2.9$, $P<0.05$ ）が有意に高い値を示した。ペア型の中で「そう思う」（ $Z = 3.7$, $P<0.05$ ）が有意に高い値、「どちらかと言えばそう思う」（ $Z = -2.3$, $P<0.05$ ）が有意に低い値を示した。つまり、独立型は「どちらかと言えばそう思う」と答えた人に人気があり、「そう思う」と答えた人に不人気であること、ペア型は「そう思う」と答えた人に人気があり、「どちらかと言えばそう思う」と答えた人に不人気であることを意味している。

項目6 友達とおしゃべりするのが好きだ

独立型の中で「そう思う」($Z = -3.7, P < 0.05$)が有意に低い値,「どちらかと言えばそう思う」($Z = 2.8, P < 0.05$)が有意に高い値を示した。ペア型の中で「そう思う」($Z = 3.0, P < 0.05$)が有意に高い値,「どちらかと言えばそう思う」($Z = -2.5, P < 0.05$)が有意に低い値を示した。つまり,独立型は「どちらかと言えばそう思う」と答えた人に人気があり,「そう思う」と答えた人に不人気であることを意味している。ペア型は「そう思う」と答えた人に人気があり,「どちらかと言えばそう思う」と答えた人に不人気であることを意味している。

項目7 はずかしがり屋である

独立型の中で「どちらかと言えばそう思わない」($Z = 2.1, P < 0.05$)が有意に高い値を示した。ペア型の中で「そう思う」($Z = 2.6, P < 0.05$)が有意に高い値,「どちらかと言えばそう思わない」($Z = -3.2, P < 0.05$)が有意に低い値を示した。つまり,独立型は「どちらかと言えばそう思わない」と答えた人に人気があること,ペア型は「そう思う」と答えた人に人気があり,「どちらかと言えばそう思わない」と答えた人に不人気であることを意味している。

項目8 元気が良い方だ

独立型の中で「そう思う」($Z = -4.3, P < 0.05$)が有意に低い値,「どちらかと言えばそう思う」($Z = 2.2, P < 0.05$)「思わない」($Z = 2.5, P < 0.05$)が有意に高い値を示した。ペア型の中で「そう思う」($Z = 2.8, P < 0.05$)が有意に高い値,「思わない」($Z = -2.0, P < 0.05$)が有意に低い値を示した。コの字型の中で「そう思う」($Z = 2.1, P < 0.05$)が有意に高い値を示した。つまり,独立型は「どちらかと言えばそう思う」「思わない」と答えた人に人気があり,「そう思う」と答えた人に不人気であることを意味している。ペア型は「そう思う」と答えた人に人気があり,「思わない」と答えた人に不人気であることを意味している。コの字型は「そう思う」と答えた人に人気があることを意味している。

表9 1位に選んだ座席配置パターンと児童の特性に関する8問の各回答のクロス集計

項目	質問内容	選んだ座席配置 パターン	そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	思わない	合計	P 値	
1	学校が好きだ	A (独立型)	度数	76	107	36	25	244	< 0.05
			期待度数	95.0	101.8	29.6	17.6		
			調整済み残差	-3.2	0.9	1.6	2.4		
		B (ペア型)	度数	124	117	26	12	279	
			期待度数	108.6	116.4	33.9	20.2		
			調整済み残差	2.6	0.1	-2.0	-2.6		
		C (コの字型)	度数	37	30	12	7	86	
			期待度数	33.5	35.9	10.4	6.2		
			調整済み残差	0.8	-1.4	0.6	0.4		
		合計	度数	237	254	74	44	609	
2	勉強が好きだ	A (独立型)	度数	32	90	68	54	244	NS
			期待度数	34.1	86.9	75.7	47.3		
			調整済み残差	-0.5	0.5	-1.4	1.4		
		B (ペア型)	度数	38	102	94	45	279	
			期待度数	38.9	99.4	86.6	54.1		
			調整済み残差	-0.2	0.4	1.3	-1.9		
		C (コの字型)	度数	15	25	27	19	86	
			期待度数	12.0	30.6	26.7	16.7		
			調整済み残差	1.0	-1.4	0.1	0.7		
		合計	度数	85	217	189	118	609	
3	授業が楽しい	A (独立型)	度数	64	111	47	22	244	NS
			期待度数	72.1	109.8	44.1	18.0		
			調整済み残差	-1.5	0.2	0.6	1.3		
		B (ペア型)	度数	94	123	46	16	279	
			期待度数	82.5	125.5	50.4	20.6		
			調整済み残差	2.1	-0.4	-0.9	-1.4		
		C (コの字型)	度数	22	40	17	7	86	
			期待度数	25.4	38.7	15.5	6.4		
			調整済み残差	-0.9	0.3	0.4	0.3		
		合計	度数	180	274	110	45	609	

4	発表することが得意である	A (独立型)	度数 期待度数 調整済み残差	33 47.3 -3.0	45 48.5 -0.7	71 64.5 1.2	95 83.7 2.0	244	< 0.05
		B (ペア型)	度数 期待度数 調整済み残差	66 54.1 2.5	51 55.4 -0.9	70 73.8 -0.7	92 95.7 -0.6	279	
		C (コの字型)	度数 期待度数 調整済み残差	19 16.7 0.7	25 17.1 2.3	20 22.7 -0.7	22 29.5 -1.8	86	
		合計	度数	118	121	161	209	609	
5	友達が多い方である	A (独立型)	度数 期待度数 調整済み残差	76 101.8 -4.3	114 97.0 2.9	35 29.2 1.5	19 16.0 1.0	244	< 0.05
		B (ペア型)	度数 期待度数 調整済み残差	139 116.4 3.7	97 110.9 -2.3	26 33.4 -1.9	17 18.3 -0.4	279	
		C (コの字型)	度数 期待度数 調整済み残差	39 35.9 0.7	31 34.2 -0.8	12 10.3 0.6	4 5.6 -0.8	86	
		合計	度数	254	242	73	40	609	
6	友達とおしゃべりするのが好きだ	A (独立型)	度数 期待度数 調整済み残差	155 175.1 -3.7	62 48.5 2.8	18 13.6 1.6	9 6.8 1.1	244	< 0.05
		B (ペア型)	度数 期待度数 調整済み残差	217 200.2 3.0	43 55.4 -2.5	11 15.6 -1.6	8 7.8 0.1	279	
		C (コの字型)	度数 期待度数 調整済み残差	65 61.7 0.9	16 17.1 -0.3	5 4.8 0.1	0 2.4 -1.7	86	
		合計	度数	437	121	34	17	609	
7	はずかしがり屋である	A (独立型)	度数 期待度数 調整済み残差	56 63.7 -1.5	80 76.1 0.7	66 55.3 2.1	42 48.9 -1.4	244	< 0.05
		B (ペア型)	度数 期待度数 調整済み残差	87 72.8 2.6	88 87.0 0.2	47 63.2 -3.2	57 55.9 0.2	279	
		C (コの字型)	度数 期待度数 調整済み残差	6 22.5 -1.7	22 26.8 -1.2	25 19.5 1.5	23 17.2 1.7	86	
		合計	度数	159	190	138	122	609	
8	元気が良い方だ	A (独立型)	度数 期待度数 調整済み残差	99 125.0 -4.3	97 84.1 2.2	30 23.2 1.9	18 11.6 2.5	244	< 0.05
		B (ペア型)	度数 期待度数 調整済み残差	160 142.9 2.8	87 96.2 -1.6	24 26.6 -0.7	8 13.3 -2.0	279	
		C (コの字型)	度数 期待度数 調整済み残差	53 44.1 2.1	26 29.7 -0.9	4 8.2 -1.7	3 4.1 -0.6	86	
		合計	度数	312	210	58	29	609	

(7) 座席配置パターン選好理由

児童が自由記述した、その座席配置パターンを選んだ理由（以下、「座席配置パターン選好理由」とする）を表10に示す。また、座席配置パターン選好理由を「授業関連」「先生との関係」「友達との関係」「快適性」「利便性」「その他」「なし」の7つのカテゴリーに分類した（表11）。座席配置パターン選好理由と学年の関係を検証するためにクロス集計して、カイ二乗検定を行った結果、有意性は認められなかった

($\chi^2(18) = 26.128, P = 0.097, V = 0.120$)（表12）。

表 10 1 位に選んだ座席配置パターンとその理由

1 位に選んだ座席配置パターン	理由（回答例）
A（独立型）	・集中できるから ・間があいているから ・通りやすいから ・コロナの影響のため
B（ペア型）	・周りと協力できるから ・忘れ物したとき、友達に貸してもらえらるから ・いろんな人と仲良くなりたいから ・分からないところを教え合えるから
C（コの字型）	・友達と話せるから ・意見交換しやすそうだから ・特別感があるから ・やったことないから

表 11 座席配置パターン選好理由分類カテゴリー

カテゴリー	回答例
授業関連	・集中できるから ・黒板が見やすいから
先生との関係	・先生から隠れやすいから ・先生にとって見やすい席だから
友達との関係	・友達同士で話し合えるから ・忘れたときに友達に借りられるから ・協力し合えるから
快適性	・隣との距離がちょうどいいから ・通路が広いから ・落ち着くから
利便性	・班が作りやすいから ・地震が起きたときに隠れやすいから ・掃除がしやすいから
その他	・なじみがあるから ・いつもと同じだから ・やったことないから
なし	・特になし ・なんとなく

表 12 座席配置パターン選好理由と学年のクロス集計

選好理由 カテゴリー		3 年生	4 年生	5 年生	6 年生	合計	P 値
授業関連	度数	30	26	38	27	121	NS
	期待度数	29.2	26.8	31	34.0		
	調整済み残差	0.2	-0.2	1.6	-1.6		
先生との関係	度数	0	2	1	3	6	
	期待度数	1.4	1.3	1.5	1.7		
	調整済み残差	-1.4	0.7	-0.5	1.2		
友達との関係	度数	51	43	48	47	189	
	期待度数	45.6	41.9	48.4	53.1		
	調整済み残差	1.1	0.2	-0.1	-1.2		
快適性	度数	18	20	17	39	94	
	期待度数	22.7	20.8	24.1	26.4		
	調整済み残差	-1.2	-0.2	-1.8	3.1		
利便性	度数	2	6	6	7	21	
	期待度数	5.1	4.7	5.4	5.9		
	調整済み残差	-1.6	0.7	0.3	0.5		
その他	度数	41	31	44	46	162	
	期待度数	39.1	35.9	41.5	45.5		
	調整済み残差	0.4	-1.1	0.5	0.1		
なし	度数	5	7	2	2	16	
	期待度数	3.9	3.5	4.1	4.5		
	調整済み残差	0.7	2.1	-1.2	-1.4		
合計	度数	147	135	156	171	609	

第 2 節 座席選好区域

A, B, C のそれぞれの座席配置を「前方」「中間」「後方」「窓側」「廊下側」の 5 区域に分割した（図 4～図 6）。

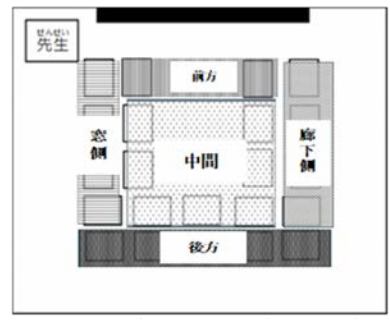
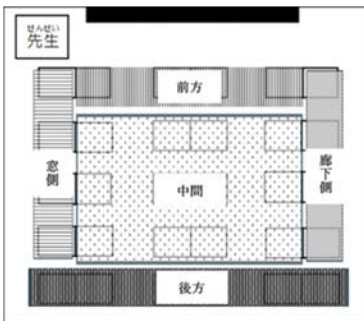
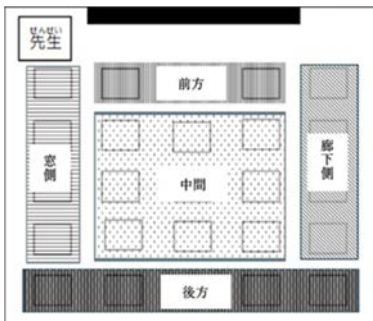


図 4 座席ゾーンの分割（独立型）

図 5 座席ゾーンの分割（ペア型）

図 6 座席ゾーンの分割（コの字型）

(1) 学年

1位に選んだ座席配置パターンの中で一番座りたい席の区域（以下、「最選好座席区域」とする）と学年の関係を検証するためにクロス集計して、カイ二乗検定を行った結果、有意性が認められた（ $\chi^2(12) = 35.353$, $P < 0.001$, $V = 0.139$ ）（表13）。残差分析の結果、3年生は窓側（ $Z = -2.0$, $P < 0.05$ ）が有意に低い値を示した。4年生は前方（ $Z = 3.8$, $P < 0.05$ ）が有意に高い値、中間（ $Z = -2.4$, $P < 0.05$ ）が有意に低い値を示した。5年生は窓側（ $Z = 2.6$, $P < 0.05$ ）が有意に高い値を示した。6年生は前方（ $Z = -3.6$, $P < 0.05$ ）が有意に低い値を示した。つまり、前方は4年生に人気があり、6年生に不人気であること、中間は4年生に不人気であること、窓側は5年生に人気があり、3年生に不人気であることを意味している。

表13 最選好座席区域と学年のクロス集計

最選好座席区域		3年生	4年生	5年生	6年生	合計	P値
前方	度数	34	40	23	16	113	< 0.05
	期待度数	27.3	25.0	28.9	31.7		
	調整済み残差	1.6	3.8	-1.4	-3.6		
中間	度数	63	42	62	77	244	
	期待度数	58.9	54.1	62.5	68.5		
	調整済み残差	0.8	-2.4	-0.1	1.6		
後方	度数	28	25	29	32	114	
	期待度数	27.5	25.3	29.2	32.0		
	調整済み残差	0.1	-0.1	0.0	0.0		
窓側	度数	10	12	27	21	70	
	期待度数	6.9	15.5	17.9	19.7		
	調整済み残差	-2.0	-1.1	2.6	0.4		
廊下側	度数	12	12	15	25	68	
	期待度数	16.4	16.4	17.4	19.1		
	調整済み残差	-1.3	-1.3	-0.7	1.7		
合計	度数	147	135	156	171	609	

(2) 性別

最選好座席区域と誕生月の関係を検証するためにクロス集計して、カイ二乗検定を行った結果、いずれも有意性は認められなかった（ $\chi^2(4) = 3.379$, $P = 0.479$, $V = 0.074$ ）（表14）。

表14 最選好座席区域と性別のクロス集計

最選好座席区域		男子	女子	合計	P値
前方	度数	53	60	113	NS
	期待度数	51.6	61.4		
	調整済み残差	0.3	-0.3		
中間	度数	107	137	244	
	期待度数	111.4	132.6		
	調整済み残差	-0.7	0.7		
後方	度数	60	54	114	
	期待度数	52.0	62.0		
	調整済み残差	1.7	-1.7		
窓側	度数	29	41	70	
	期待度数	32.0	38.0		
	調整済み残差	-0.8	0.8		
廊下側	度数	29	39	68	
	期待度数	31.0	37.0		
	調整済み残差	-0.5	0.5		
合計	度数	278	331	609	

(3) 各学年と性別

最選好座席区域と各学年の性別の関係を検証するためにクロス集計して、カイ二乗検定を行った結果、有意性は認められなかった（3年生： $\chi^2(4) = 2.994$, $P = 0.559$, $V = 0.143$ ）（4年生： $\chi^2(4) = 2.247$, $P = 0.690$, $V = 0.129$ ）（5年生： $\chi^2(4) = 7.614$, $P = 0.107$, $V = 0.221$ ）（6年生： $\chi^2(4) = 3.020$, $P = 0.554$, $V = 0.133$ ）（表15）。

表 15 最選好座席区域と各学年の性別のクロス集計

学年	最選好座席区域		男子	女子	合計	P 値
3	前方	度数	16	18	34	NS
		期待度数	16.0	18.0		
		調整済み残差	0.0	0.0		
	中間	度数	32	31	63	
		期待度数	29.6	33.4		
		調整済み残差	0.8	-0.8		
	後方	度数	14	14	28	
		期待度数	13.1	14.9		
		調整済み残差	0.4	-0.4		
	窓側	度数	4	6	10	
		期待度数	4.7	5.3		
		調整済み残差	-0.3	0.5		
	廊下側	度数	3	9	12	
		期待度数	5.6	6.4		
		調整済み残差	-1.6	1.6		
	合計	度数	69	78	147	
4	前方	度数	16	24	40	NS
		期待度数	19.0	21.0		
		調整済み残差	-1.1	1.1		
	中間	度数	23	19	42	
		期待度数	19.9	22.1		
		調整済み残差	1.2	-1.2		
	後方	度数	13	12	25	
		期待度数	11.9	13.1		
		調整済み残差	0.5	-0.5		
	窓側	度数	5	7	12	
		期待度数	5.7	6.3		
		調整済み残差	-0.4	0.4		
	廊下側	度数	7	9	16	
		期待度数	7.6	8.4		
		調整済み残差	-0.3	0.3		
	合計	度数	64	71	135	
5	前方	度数	14	9	23	NS
		期待度数	10.3	12.7		
		調整済み残差	1.7	-1.7		
	中間	度数	22	40	62	
		期待度数	27.8	34.2		
		調整済み残差	-1.9	1.9		
	後方	度数	17	12	29	
		期待度数	13.0	16.0		
		調整済み残差	1.6	-1.6		
	窓側	度数	12	15	27	
		期待度数	12.1	14.9		
		調整済み残差	0.0	0.0		
	廊下側	度数	5	10	15	
		期待度数	6.7	8.3		
		調整済み残差	-0.9	0.9		
	合計	度数	70	86	156	
6	前方	度数	7	9	16	NS
		期待度数	7.0	9.0		
		調整済み残差	0.0	0.0		
	中間	度数	30	47	77	
		期待度数	33.8	43.2		
		調整済み残差	-1.2	1.2		
	後方	度数	16	16	32	
		期待度数	14.0	18.0		
		調整済み残差	0.8	-0.8		
	窓側	度数	8	13	21	
		期待度数	9.21	1.8		
		調整済み残差	-0.6	0.6		
	廊下側	度数	14	11	25	
		期待度数	11.0	14.0		
		調整済み残差	1.3	-9.3		
	合計	度数	75	96	171	

(4) 誕生月

最選好座席区域と誕生月の関係を検証するためにクロス集計して、カイ二乗検定を行った結果、いずれも有意性は認められなかった ($\chi^2(12) = 11.835$, $P = 0.459$, $V = 0.080$) (表 16)。

表 16 最選好座席区域と誕生月のクロス集計

最選好座席 区域		4・5・6月	7・8・9月	10・11・12月	1・2・3月	合計	P 値
前方	度数	28	22	33	30	113	NS
	期待度数	28.8	28.2	30.4	25.6		
	調整済み残差	-0.2	-1.5	0.6	1.1		
中間	度数	68	56	63	57	244	
	期待度数	62.1	60.9	65.7	55.3		
	調整済み残差	1.1	-0.9	-0.5	0.3		
後方	度数	28	30	30	26	114	
	期待度数	29.0	28.5	30.7	25.8		
	調整済み残差	-0.2	0.4	-0.2	0.0		
窓側	度数	14	27	19	10	70	
	期待度数	17.8	17.5	18.9	15.9		
	調整済み残差	-1.1	2.8	0.0	-1.8		
廊下側	度数	17	17	19	15	68	
	期待度数	17.3	17.0	18.3	15.4		
	調整済み残差	-0.1	0.0	0.2	-0.1		
合計	度数	155	152	164	138	609	

(5) 好きな教科・嫌いな教科

最選好座席区域と好きな教科および嫌いな教科の関係を検証するためにクロス集計して、カイ二乗検定を行った結果、いずれも有意性が認められた ($\chi^2(56) = 83.920$, $P=0.009$, $V=0.186$) ($\chi^2(44) = 62.865$, $P=0.032$, $V=0.161$) (表 17)。残差分析の結果は下記の通りである。

好きな教科

中間は書写 ($Z=2.1$, $P<0.05$) が有意に高い値、総合 ($Z = -2.0$, $P<0.05$) が有意に低い値を示した。後方は体育 ($Z = 3.0$, $P<0.05$)、総合 ($Z = 3.0$, $P<0.05$)、なし ($Z = 2.4$, $P<0.05$) の回答が有意に高い値を示した。窓側は国語 ($Z=2.0$, $P<0.05$)、なし ($Z = 2.0$, $P<0.05$) が有意に高い値、体育 ($Z = -2.7$, $P<0.05$) が有意に低い値を示した。つまり、中間は書写が好きな人に人気があり、総合が好きな人に不人気であること、後方は体育、総合が好きな人、好きな教科がない人に人気があること、窓側は国語が好きな人、好きな教科がない人に人気があり、体育が好きな人に不人気であることを意味している。

嫌いな教科

前方はなし ($Z = 3.1$, $P<0.05$) が有意に高い値、道徳 ($Z = -2.3$, $P<0.05$) が有意に低い値を示した。窓側は家庭科 ($Z = 2.0$, $P<0.05$) が有意に高い値を示した。廊下側は道徳 ($Z = 3.7$, $P<0.05$) が有意に高い値を示した。つまり、前方は嫌いな教科がない人に人気があり、道徳が嫌いな人に不人気であること、窓側は家庭科が嫌いな人に人気であること、廊下側は道徳が嫌いな人に人気があることを意味している。

表 17 最選好座席区域と好きな教科・嫌いな教科のクロス集計

質問内容	最選好座席区域		国語	算数	理科	社会	外国語	体育	総合	図書	図工	道徳	書写	音楽	学活	家庭科	なし	合計	P 値
好きな教科	前方	度数	6	13	10	10	2	32	1	1	21	3	0	11	1	2	0	113	<0.05
		期待度数	4.6	10.6	9.1	7.4	1.9	36.9	1.1	2.2	17.3	1.9	0.6	12.1	2.8	3.7	0.9		
		調整済み残差	0.7	0.9	0.3	1.1	0.1	-1.1	-0.1	-0.9	1.1	0.9	-0.8	-0.4	-1.2	-1.0	-1.1		
	中間	度数	10	21	21	11	6	82	0	3	38	3	3	29	5	12	0	244	
		期待度数	10.0	22.8	19.6	16.0	4.0	79.7	2.4	4.8	37.3	4.0	1.2	26.0	6.0	8.0	2.0		
		調整済み残差	0.0	-0.5	0.4	-1.7	1.3	0.4	-2.0	-1.1	0.2	-0.7	2.1	0.8	-0.5	1.8	-1.8		
	後方	度数	2	9	8	5	1	51	4	2	15	0	0	10	3	1	3	114	
		期待度数	4.7	10.7	9.2	7.5	1.9	37.3	1.1	2.2	17.4	1.9	0.6	12.2	2.8	3.7	0.9		
		調整済み残差	-1.4	-0.6	-0.4	-1.0	-0.7	3.0	3.0	-0.2	-0.7	-1.5	-0.8	-0.7	0.1	-1.6	2.4		
	窓側	度数	6	11	5	8	0	13	0	3	8	1	0	7	2	4	2	70	
		期待度数	2.9	6.6	5.6	4.6	1.1	22.9	0.7	1.4	10.7	1.1	0.3	7.5	1.7	2.3	0.6		
		調整済み残差	2.0	1.9	-0.3	1.7	-1.1	-2.7	-0.9	1.5	-0.9	-0.1	-0.6	-0.2	0.2	1.2	2.0		

嫌いな教科	廊下側	度数	1	3	5	6	1	21	1	3	11	3	0	8	4	1	0	68	<0.05
		期待度数	2.8	6.4	5.5	4.5	1.1	22.2	0.7	1.3	10.4	1.1	0.3	7.3	1.7	2.2	0.6		
		調整済み残差	-1.2	-1.5	-0.2	0.8	-0.1	-0.3	0.4	1.5	0.2	1.9	-0.6	0.3	1.9	-0.9	-0.8		
	合計	度数	25	57	49	40	10	199	6	12	93	10	3	65	15	20	5	609	
	前方	度数	20	37	6	19	3	6	0	0	5	0	3	2	0	0	12	113	
		期待度数	21.3	43.4	6.1	13.2	6.3	4.6	0.0	0.0	2.6	4.3	2.6	2.0	0.0	0.9	5.6		
		調整済み残差	-0.4	-1.4	-0.1	1.9	-1.5	0.7	0.0	0.0	1.7	-2.3	0.3	0.0	0.0	-1.1	3.1		
	中間	度数	49	100	15	29	12	8	0	0	3	6	6	6	0	2	8	244	
		期待度数	46.1	93.8	13.2	28.4	13.6	10.0	0.0	0.0	5.6	9.2	5.6	4.4	0.0	2.0	12.0		
		調整済み残差	0.6	1.1	0.6	0.1	-0.6	-0.8	0.0	0.0	-1.4	-1.4	0.2	1.0	0.0	0.0	-1.5		
	後方	度数	20	43	5	11	9	5	0	0	3	5	5	1	0	0	7	114	
		期待度数	21.5	43.8	6.2	13.3	6.4	4.7	0.0	0.0	2.6	4.3	2.6	2.1	0.0	0.9	5.6		
		調整済み残差	-0.4	-0.2	-0.5	-0.7	1.2	0.2	0.0	0.0	0.3	0.4	1.6	-0.8	0.0	-1.1	0.7		
	窓側	度数	17	26	5	7	4	2	0	0	1	4	0	0	0	2	2	70	
		期待度数	13.2	26.9	3.8	8.2	3.9	2.9	0.0	0.0	1.6	2.6	1.6	1.3	0.0	0.6	3.4		
		調整済み残差	1.2	-0.2	0.7	-0.5	0.1	-0.6	0.0	0.0	-0.5	0.9	-1.4	-1.2	0.0	2.0	-0.9		
廊下側	度数	9	28	2	5	6	4	0	0	2	8	0	2	0	1	1	68		
	期待度数	12.8	26.1	3.7	7.9	3.8	2.8	0.0	0.0	1.6	2.6	1.6	1.2	0.0	0.6	3.3			
	調整済み残差	-1.3	0.5	-1.0	-1.2	1.2	0.8	0.0	0.0	0.4	3.7	-1.3	0.7	0.0	0.6	-1.4			
合計	度数	115	234	33	71	34	25	0	0	14	23	14	11	0	5	30	609		

<0.05

(6) 児童の特性

最要好座席区域と児童の特性に関する質問 8 項目それぞれの関係を検証するためにクロス集計して、カイ二乗検定を行った結果、項目 1, 2, 3, 4, 5, 8 に有意性が認められた（学校が好きだ： $\chi^2(12) = 40.276$, $P < 0.001$, $V = 0.148$)（勉強が好きだ： $\chi^2(12) = 34.512$, $P < 0.001$, $V = 0.137$)（授業が楽しい： $\chi^2(12) = 50.667$, $P < 0.001$, $V = 0.167$)（発表することが得意である： $\chi^2(12) = 25.187$, $P = 0.014$, $V = 0.117$)（友達が多い方である： $\chi^2(12) = 29.436$, $P = 0.003$, $V = 0.127$)（友達とおしゃべりするのが好きだ： $\chi^2(12) = 12.915$, $P = 0.375$, $V = 0.084$)（はずかしがり屋である： $\chi^2(12) = 12.888$, $P = 0.377$, $V = 0.084$)（元気が良い方だ： $\chi^2(12) = 27.956$, $P = 0.006$, $V = 0.124$)（表 18）。各項目の残差分析は下記の通りである。

項目 1 学校が好きだ

前方は「そう思う」（ $Z = 3.2$, $P < 0.05$ ）が有意に高い値を示した。中間は「どちらかと言えばそう思わない」（ $Z = -2.9$, $P < 0.05$ ）が有意に低い値を示した。後方は「そう思う」（ $Z = -2.4$, $P < 0.05$ ）が有意に低い値、「どちらかと言えばそう思わない」（ $Z = 2.6$, $P < 0.05$ ）「思わない」（ $Z = 2.7$, $P < 0.05$ ）が有意に高い値を示した。廊下側は「そう思う」（ $Z = -2.5$, $P < 0.05$ ）が有意に低い値、「どちらかと言えばそう思わない」（ $Z = 2.7$, $P < 0.05$ ）が有意に高い値を示した。つまり、前方は「そう思う」と答えた人に人気があること、中間は「どちらかと言えばそう思わない」と答えた人に不人気であること、後方は「どちらかと言えばそう思わない」「思わない」と答えた人に人気があり、「そう思う」と答えた人に不人気であること、廊下側は「どちらかと言えばそう思わない」と答えた人に人気があり、「そう思う」と答えた人に不人気であることを意味している。

項目 2 勉強が好きだ

中間は「どちらかと言えばそう思う」（ $Z = 2.4$, $P < 0.05$ ）が有意に高い値、「思わない」（ $Z = -3.2$, $P < 0.05$ ）が有意に低い値を示した。後方は「どちらかと言えばそう思う」（ $Z = -3.4$, $P < 0.05$ ）が有意に低い値、「思わない」（ $Z = 4.2$, $P < 0.05$ ）が有意に高い値を示した。つまり、中間は「どちらかと言えばそう思う」と答えた人に人気があり、「思わない」と答えた人に不人気であること、後方は「思わない」と答えた人に人気があり、「どちらかと言えばそう思う」と答えた人に不人気であることを意味している。

項目 3 授業が楽しい

前方は「そう思う」（ $Z = 4.0$, $P < 0.05$ ）が有意に高い値、「どちらかと言えばそう思わない」（ $Z = -2.8$, $P < 0.05$ ）が有意に低い値を示した。中間は「どちらかと言えばそう思わない」（ $Z = -2.2$, $P < 0.05$ ）が有意に低い値を示した。後方は「どちらかと言えばそう思わない」（ $Z = 2.3$, $P < 0.05$ ）が有意に高い値を示した。窓側は「そう思う」

（ $Z = -2.7$, $P < 0.05$ ）が有意に低い値、「思わない」（ $Z = 2.3$, $P < 0.05$ ）が有意に高い値を示した。廊下側は「そう思う」（ $Z = -2.3$, $P < 0.05$ ）が有意に低い値、「どちらかと言えばそう思わない」（ $Z = 3.9$, $P < 0.05$ ）が有意に高い値を示した。つまり、前方は「そう思う」と答えた人に人気があること、中間は「どちらかと言えばそう思わない」と答えた人に不人気であること、後方は「どちらかと言えばそう思わない」と答えた人に人気があること、窓側は「思

わない」と答えた人に人気があり、「そう思う」と答えた人に不人気であること、廊下側は「どちらかと言えばそう思わない」と答えた人に人気があり、「そう思う」と答えた人に不人気であることを意味している。

項目4 発表することが得意である

前方は「そう思う」（ $Z=3.2$, $P<0.05$ ）が有意に高い値、「どちらかと言えばそう思わない」（ $Z=-2.3$, $P<0.05$ ）が有意に低い値を示した。中間は「どちらかと言えばそう思わない」（ $Z=2.2$, $P<0.05$ ）が有意に高い値、「思わない」（ $Z=-2.4$, $P<0.05$ ）が有意に低い値を示した。後方は「思わない」（ $Z=2.6$, $P<0.05$ ）が有意に高い値を示した。廊下側は「そう思う」（ $Z=-2.0$, $P<0.05$ ）が有意に低い値を示した。つまり、前方は「そう思う」と答えた人に人気があり、「どちらかと言えばそう思わない」と答えた人に不人気であること、中間は「どちらかと言えばそう思わない」と答えた人に人気があり、「思わない」と答えた人に不人気であること、後方は「思わない」と答えた人に人気があること、廊下側は「そう思う」と答えた人に不人気であることを意味している。

項目5 友達が多い方である

前方は「そう思う」（ $Z=2.1$, $P<0.05$ ）が有意に高い値を示した。中間は「そう思う」（ $Z=2.1$, $P<0.05$ ）が有意に高い値、「どちらかと言えばそう思わない」（ $Z=-2.6$, $P<0.05$ ）「思わない」（ $Z=-2.3$, $P<0.05$ ）が有意に低い値を示した。後方は「そう思う」（ $Z=-3.1$, $P<0.05$ ）が有意に低い値、「思わない」（ $Z=2.3$, $P<0.05$ ）が有意に高い値を示した。つまり、前方は「そう思う」と答えた人に人気があること、中間は「そう思う」と答えた人に人気があり、「どちらかと言えばそう思わない」「思わない」と答えた人に不人気であること、後方は「思わない」と答えた人に人気があり、「そう思う」と答えた人に不人気であることを意味している。

項目8 元気が良い方だ

前方は「そう思う」（ $Z=2.3$, $P<0.05$ ）、後方は「思わない」（ $Z=2.7$, $P<0.05$ ）が有意に高い値を示した。廊下側は「そう思う」（ $Z=-2.5$, $P<0.05$ ）が有意に低い値、「どちらかと言えばそう思わない」（ $Z=2.4$, $P<0.05$ ）「思わない」（ $Z=2.3$, $P<0.05$ ）が有意に高い値を示した。つまり、前方は「そう思う」、後方は「思わない」と答えた人に人気があること、廊下側は「どちらかと言えばそう思わない」「思わない」と答えた人に人気であり、「そう思う」と答えた人に不人気であることを意味している。

表 18 最選好座席区域と児童の特性に関する各質問項目のクロス集計

項目	質問内容	最選好座席 区域	そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	思わない	合計	P 値	
1	学校が好きだ	前方	度数 期待度数 調整済み残差	59 44.0 3.2	39 47.1 -1.7	10 13.7 -1.2	5 8.2 -1.3	113	< 0.05
		中間	度数 期待度数 調整済み残差	103 95.0 1.4	111 101.8 1.5	18 29.6 -2.9	12 17.6 -1.8	244	
		後方	度数 期待度数 調整済み残差	33 44.4 -2.4	44 47.5 -0.7	22 13.9 2.6	15 8.2 2.7	114	
		窓側	度数 期待度数 調整済み残差	25 27.2 -0.6	29 29.2 -0.1	9 8.5 0.2	7 5.1 1.0	70	
		廊下側	度数 期待度数 調整済み残差	17 26.5 -2.5	31 28.4 0.7	15 8.3 2.7	5 4.9 0.0	68	
		合計	度数	237	254	74	44	609	
		2	勉強が好きだ	前方	度数 期待度数 調整済み残差	22 15.8 1.9	44 40.3 0.8	32 35.1 -0.7	
中間	度数 期待度数 調整済み残差			32 34.1 -0.5	101 86.9 2.4	79 75.7 0.6	32 47.3 -3.2	244	
後方	度数 期待度数 調整済み残差			17 15.9 0.3	25 40.6 -3.4	34 35.4 -0.3	38 22.1 4.2	114	
窓側	度数 期待度数 調整済み残差			8 9.8 -0.6	26 24.9 0.3	21 21.7 -0.2	15 13.6 0.5	70	

		廊下側	度数	6	21	23	18	68	
			期待度数	9.5	24.2	21.1	13.2		
			調整済み残差	-1.3	-0.9	0.5	1.6		
		合計	度数	85	217	189	118	609	
3	授業が楽しい	前方	度数	51	45	10	7	113	< 0.05
			期待度数	33.4	50.8	20.4	8.3		
			調整済み残差	4.0	-1.2	-2.8	-0.5		
		中間	度数	80	117	34	13	244	
			期待度数	72.1	109.8	44.1	18.0		
			調整済み残差	1.4	1.2	-2.2	-1.6		
		後方	度数	26	49	29	10	114	
			期待度数	33.7	51.3	20.6	8.4		
			調整済み残差	-1.8	-0.5	2.3	0.6		
		窓側	度数	11	36	13	10	70	
			期待度数	20.7	31.5	12.6	5.2		
			調整済み残差	-2.7	1.2	0.1	2.3		
		廊下側	度数	12	27	24	5	68	
			期待度数	20.1	30.6	12.3	5.0		
			調整済み残差	-2.3	-0.9	3.9	0.0		
		合計	度数	180	274	110	45	609	
4	発表することが得意である	前方	度数	34	22	20	37	113	< 0.05
			期待度数	21.9	22.5	29.9	28.8		
			調整済み残差	3.2	-0.1	-2.3	-0.4		
		中間	度数	49	49	76	70	244	
			期待度数	47.3	48.5	64.5	83.7		
			調整済み残差	0.4	0.1	2.2	-2.4		
		後方	度数	18	18	27	51	114	
			期待度数	22.1	22.7	30.1	39.1		
			調整済み残差	-1.1	-1.2	-0.7	2.6		
		窓側	度数	0	16	18	26	70	
			期待度数	13.6	13.9	18.5	24.0		
			調整済み残差	-1.1	0.7	-0.1	0.5		
		廊下側	度数	7	16	20	25	68	
			期待度数	13.2	13.5	18.0	23.3		
			調整済み残差	-2.0	0.8	0.6	0.5		
		合計	度数	118	121	161	209	609	
5	友達が多い方である	前方	度数	57	36	11	9	113	< 0.05
			期待度数	47.1	44.9	13.5	7.4		
			調整済み残差	2.1	-1.9	-0.8	0.7		
		中間	度数	114	102	19	9	244	
			期待度数	101.8	97.0	29.2	16.0		
			調整済み残差	2.1	0.9	-2.6	-2.3		
		後方	度数	33	50	18	13	114	
			期待度数	47.5	45.3	13.7	7.5		
			調整済み残差	-3.1	1.0	1.4	2.3		
		窓側	度数	23	29	13	5	70	
			期待度数	29.2	27.8	8.4	4.6		
			調整済み残差	-1.6	0.3	-1.8	-0.2		
		廊下側	度数	27	25	12	4	68	
			期待度数	28.4	27.0	8.2	4.5		
			調整済み残差	-0.4	-0.5	1.5	-0.2		
		合計	度数	254	242	73	40	609	
6	友達とおしゃべりするのが好きだ	前方	度数	83	18	6	6	113	< 0.05
			期待度数	81.1	22.5	6.3	3.2		
			調整済み残差	0.4	-1.2	-0.1	1.8		
		中間	度数	183	45	14	2	244	
			期待度数	175.1	48.5	13.6	6.8		
			調整済み残差	1.5	-0.7	0.1	-2.4		
		後方	度数	74	26	9	5	114	
			期待度数	81.8	22.7	6.4	3.2		
			調整済み残差	-1.8	0.9	1.2	1.1		
		窓側	度数	48	17	3	2	70	
			期待度数	50.2	13.9	3.9	2.0		
			調整済み残差	-0.6	1.0	-0.5	0.0		
		廊下側	度数	49	15	2	2	68	
			期待度数	48.8	13.5	3.8	1.9		
			調整済み残差	0.1	0.5	-1.0	0.1		
		合計	度数	437	121	34	17	609	

7	はずかしがり屋である	前方	度数	31	34	17	31	113	< 0.05
			期待度数	29.52	35.3	25.6	2.6		
			調整済み残差	0.4	-0.3	-2.1	2.2		
		中間	度数	61	72	65	46	244	
			期待度数	63.74	76.1	55.3	8.9		
			調整済み残差	-0.5	-0.7	1.9	-0.6		
		後方	度数	32	32	28	22	114	
8	元気が良い方だ		期待度数	29.8	35.6	25.8	22.8		< 0.05
			調整済み残差	0.5	-0.8	0.5	-0.2		
		窓側	度数	20	26	13	11	70	
			期待度数	18.3	21.8	15.9	14.0		
			調整済み残差	0.5	1.1	-0.9	-1.0		
		廊下側	度数	15	26	15	12	68	
			期待度数	17.8	21.2	15.4	13.6		
			調整済み残差	-0.8	1.3	-0.1	-0.5		< 0.05
		合計	度数	159	190	138	122	609	
		前方	度数	69	34	8	2	113	
			期待度数	57.9	39.0	10.8	5.4		
			調整済み残差	2.3	-1.1	-1.0	-1.7		
		中間	度数	128	90	19	7	244	
			期待度数	125.0	84.1	23.2	11.6		
			調整済み残差	0.5	1.0	-1.2	-1.8		< 0.05
		後方	度数	56	35	12	11	114	
			期待度数	58.4	39.3	10.9	5.4		
			調整済み残差	-0.5	-0.9	0.4	2.7		
		窓側	度数	34	27	7	2	70	
			期待度数	35.9	24.1	6.7	3.3		
			調整済み残差	-0.5	0.8	0.1	-0.8		
		廊下側	度数	25	24	12	7	68	< 0.05
			期待度数	34.8	23.4	6.5	3.2		
			調整済み残差	-2.5	0.1	2.4	2.3		
		合計	度数	312	210	58	29	609	

(7) 最選好座席区域理由

座席配置パターン同様、児童が自由記述した最選好座席区域理由を7つのカテゴリーに分類した（表19）。最選好座席区域理由と学年の関係を検証するためにクロス集計して、カイ二乗検定を行った結果、有意性が認められた（ $\chi^2(18) = 37.118$, $P = 0.005$, $V = 0.143$ ）（表20）。残差分析の結果、3年生は「快適性」（ $Z=2.0$, $P<0.05$ ）、4年生は「なし」（ $Z=2.9$, $P<0.05$ ）、5年生は「利便性」（ $Z=2.1$, $P<0.05$ ）、6年生は「先生との関係」（ $Z=2.6$, $P<0.05$ ）「その他」（ $Z=2.1$, $P<0.05$ ）が有意に高い値を示した。

表19 最選好座席理由分類カテゴリー

カテゴリー	回答例
授業関連	・黒板が見やすいから ・授業に集中しやすいから ・先生の話をしっかり聞けるから
先生との関係	・先生が近くにいるから ・先生と話したいから ・先生から見えにくいから
友達との関係	・友達がいるから ・いろんな人と仲良くなれるから ・友達とおしゃべりできるから
快適性	・冷房が当たるから ・前に人がいないから ・温かいから
利便性	・外にすぐ行けるから ・ランドセルが取りに行けるから ・早く帰れるから
その他	・その席が好きだから ・端が好きだから ・真ん中だから
なし	・特になし ・なんとなく

表20 最選好座席理由と学年のクロス集計

選好理由 カテゴリー		3年生	4年生	5年生	6年生	合計	P値
授業関連	度数	75	74	79	75	303	< 0.05
	期待度数	73.1	67.2	77.6	85.1		
	調整済み残差	0.4	1.3	0.3	-1.8		
先生との関係	度数	7	6	10	19	42	
	期待度数	10.1	9.3	10.8	11.8		
	調整済み残差	-1.2	-1.3	-0.3	2.6		
友達との関係	度数	4	7	2	6	19	< 0.05
	期待度数	4.6	4.2	4.9	5.3		
	調整済み残差	-0.3	1.6	-1.5	0.3		

快適性	度数	34	19	25	30	108
	期待度数 調整済み残差	26.1 2.0	23.9 -1.3	27.7 -0.6	30.3 -0.1	
利便性	度数	6	5	12	5	28
	期待度数 調整済み残差	6.8 -0.3	6.2 -0.6	7.2 2.1	7.9 -1.2	
その他	度数	15	14	26	33	88
	期待度数 調整済み残差	21.2 -1.7	19.5 -1.5	22.5 0.9	24.7 2.1	
なし	度数	6	10	2	3	21
	期待度数 調整済み残差	5.1 0.5	4.7 2.9	5.4 -1.7	5.9 -1.4	
合計	度数	147	135	156	171	609

第3節 先生の回答の分析

回答者 27 名のうち、分析対象者は 23 名であった。表 21 に分析対象内訳を示す。

表 21 分析対象内訳（先生）

経験年数	1～5 年	6～10 年	11～15 年	16～20 年	21～25 年	26～30 年	30 年以上	合計
人数	5	6	6	5	0	0	1	23

(1) 現在の座席配置

現在の座席配置についての結果を図 7 に示す。独立型と回答した方が 16 名 (70%)、ペア型と回答した方が 7 名 (30%) であった。コの字型と回答した方はいなかった。

また、学年別の現在の座席配置についての結果を図 8 に示す。3 年生は独立型が 3 名 (43%)、ペア型が 4 名 (64%)、4 年生は独立型が 4 名 (100%)、ペア型が 0 名 (0%)、5 年生は独立型が 3 名 (60%)、ペア型が 2 名 (40%)、6 年生は独立型が 6 名 (86%)、ペア型が 1 名 (14%) であった。

(2) 現在の座席配置にしている理由

現在の座席配置にしている理由を表 17 に示す。また、それらを「授業関連」「人間関係」「快適性」「利便性」「その他」「なし」の 6 つのカテゴリーに分類した (表 22)。分類別の結果を図 9 に示す。授業関連が 12 名 (54%)、人間関係、利便性、なしがそれぞれ 1 名ずつ (4%)、快適性が 2 名 (9%)、その他が 6 名 (25%) であった。

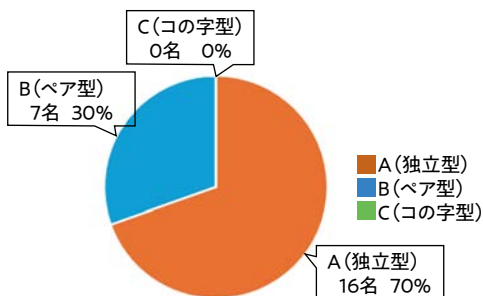


図 7 現在の座席配置

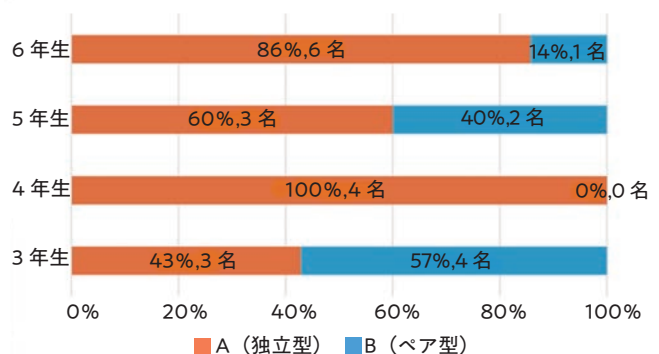


図 8 学年別の現在の座席配置

表 22 現在の座席配置とその理由

現在の座席配置	理由 (例)
A (独立型)	・集中させるため ・自分のスペースを確保するため ・個人の取り組みを重視するため・コロナの影響のため
B (ペア型)	・話し合いがしやすいため ・ペアワークさせやすいため ・班の形にしやすいため ・コミュニケーションを取るきっかけになるため

表 23 現在の座席配置にしている理由分類カテゴリー

カテゴリー	回答例
授業関連	・集中させるため ・ペアワークさせやすいため ・授業中のおしゃべりを減らすため
人間関係	・コミュニケーションを取るきっかけになるため
快適性	・自分のスペースを確保するため
利便性	・班の形にしやすいため
その他	・コロナの影響のため ・中高のスタンダードに合わせるため
なし	・特になし

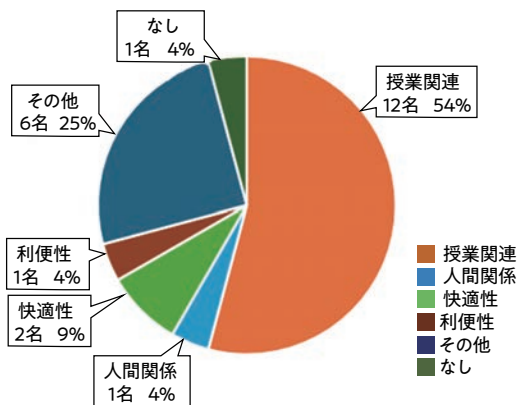


図9 現在の座席配置にしている理由

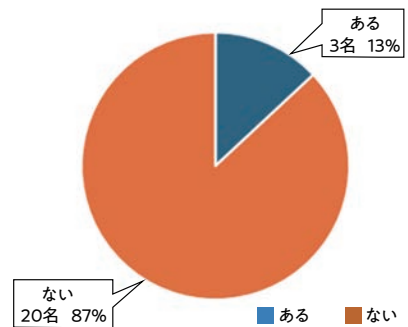


図10 理想の座席の有無

(3) 理想の座席の有無

理想の座席の有無についての結果を図10に示す。あると回答した方が3名（13%）、ないと答えた方が20名（87%）であった。

(4) 理想の座席があると回答した方の結果

理想の座席があると回答した方の結果を表24に示す。

表24 理想の座席があると回答した方の結果

理想の座席	理由
	・机間指導がしやすいから ・話し合いがしやすいから
	・班の区切りが分かりやすい ・誰かが発表したときに顔を向けやすい
学習や、その目的に合わせて児童が自由に机を移動させる	・自由進度学習を目指しているから

第4章 考察

本研究の目的は、教室内の座席配置について、先生側と児童側の意見を明らかにすること、児童の座席選好を明らかにすることであった。小学3年生から6年生の児童とその担任の先生を対象に、教室内の座席配置や座席選好に関するアンケートを行った。今回の調査から得られた結果を受け、以下に考察を試みる。

第1節 座席配置パターン

1位に選ばれた座席配置パターンは、学年によって違いが見られた。しかし、男女での違いは見られなかった。二宮らの研究では、特に9歳から14歳の男女の成長には差があると報告されており⁽⁹⁾、この先行研究の結果も踏まえると、授業内容や指導方法だけでなく⁽¹⁰⁾、教室内の座席配置にも児童一人ひとりの発達段階を考慮し、そのクラスに合った座席配置にする必要があると考えられる。

特に、3年生はペア型、6年生は独立型を好む傾向が確認された。平成18年

の調査では、学年が上がるにつれて友人関係が広がること、中でもおしゃべりをしたり、秘密を話したりする友達が増加することが報告されており⁽¹¹⁾、この結果から、6年生は友達より距離の近いペア型の座席配置を好むと推測される。しかし、本研究の結果では6年生はペア型ではなく、独立型を好む傾向が確認された。つまり、本研究の6年生は、教室の座席において友達との距離を望まない可能性がある。先行研究と本研究の6年生の特徴の不一致については、平成18年当時と現在では6年生の精神的成長や、考え方に違いがあると考えられる。この違いの背景には、コロナ禍により人との距離の確保が必要になったことなど、社会の変化や児童を取り巻く環境の変化が影響している可能性がある。また、6年生が独立型を好む理由としては、学年が上がるにつれ心理的・社会的な成熟度が高まったり、自立心が芽生えたりするためであると考えられる。さらに、中学受験などの影響もあり、集中して自分の学習に取り組みたいという気持ちがあることも考えられる。

1位に選ばれた座席配置パターンと児童の誕生日には有意な関連が見られなかった。しかし、誕生日に関する研究では、学業成績における早生まれの影響があること⁽¹²⁾や、生まれた月が性格の形成に要因があること⁽¹³⁾などが報告されている。そのため、誕生日が座席配置選好パターンにも影響される可能性があると考えられるが、本研究で有意性は認められなかった。この要因として、本研究のサンプルサイズが十分ではなかった可能性があると考えられる。

児童の特性に関する質問8項目のアンケート調査では、「学校が好きだ」、「発表することが得意である」、「元気な方である」の質問に「そう思う」と回答した児童は、ペア型を好む傾向が認められた。この結果から、これらの特性を持つ児童は他者との関わりや、協働を重視する傾向があることが示唆される。しかし、その他の質問には回答の一貫性が見られなかった。これは、「好きだ」「得意だ」など質問内容が児童一人ひとりの解釈に委ねられた部分が多かった可能性がある。

第2節 座席選好区域

座席選好区域は、学年によって違いが見られた。特に、4年生は前方を好む一方で、6年生は前方を避ける傾向が確認された。平成6年の研究においても4年生は前方を好み、6年生は前方を避ける傾向にあることが報告されている⁽¹⁴⁾。先行研究と本研究の結果の一致から、学年における座席選好の違いは普遍的なものである可能性が考えられる。

教科と座席選好区域の関連については、嫌いな教科が「ない」と答えた人は前方を好み、逆に好きな教科が「ない」と答えた人は後方を好む傾向が確認された。嫌いな教科がない児童は全般的に学習に対する意欲や関心が高い可能性がある。そのため、授業への積極的な参加を望み、結果的に前方の座席を好む傾向にあると考えられる。一方で、好きな教科がない児童は学習に対する意欲や関心が低い可能性がある。そのため、先生目から遠い後方の座席を好む傾向にあると考えられる。下鶴らの大学生を対象にした研究では、座席が前方の学生は、座席が後方の学生よりも学習意欲が高いことが報告されている⁽¹⁵⁾。先行研究と本研究の結果から、年齢に関係なく、座席位置と学習意欲との関連があると考えられる。

児童の特性に関する質問8項目のアンケート調査では、「学校が好きだ」、「勉強が好きだ」、「授業が楽しい」、「友達が多い方である」、「元気が良い方だ」の質問に「そう思う」と回答した児童は前方、「思わない」と回答した児童は後方を好む傾向が確認された。しかし、座席配置パターンと同様に、その他の質問には回答の一貫性が見られなかったことから、質問を再検討する必要があると考えられる。

第3節 先生の回答の分析

先生の回答を見てみると、独立型の座席配置パターンを採用している方が全体の70%であった(図7)。その理由として、「集中させるため」や「自分のスペースを確保するため」などが挙げられている(表22)。中には、「コロナの影響のため」という理由も挙げられており、社会の状況が教室内の座席配置に影響を与える可能性があることも考えられる。また、ペア型の座席配置パターンを採用している方は全体の30%であった(図7)。その理由として、「話し合いがしやすいため」「ペアワークしやすいため」などが挙げられている(表22)。独立型の座席配置パターンの採用理由と比べると、どちらも「先生の授業しやすさ」よりも「児童の学習のしやすさ」を優先していると考えられる。

学年ごとの現在の座席配置パターンの割合を見てみると、3年生は独立型が43%、ペア型57%、6年生は独立型が86%、ペア型が14%であり、3年生はペア型、6年生は独立型の割合が多かった(図8)。この結果から、3年生はペア型、6年生は独立型を好む傾向にあるという児童の結果と各学年で採用されている座席配置パターンとの関連が確認できた。しかし、先生の回答はサンプルサイズが小さいために統計を取れていない。そのため、必ずしも関連が確認できたとは言えない。

理想の座席配置があると答えた方の回答を見てみると、理想の座席配置もその理由も様々であった（表24）。また、87%の先生が、理想の座席配置は「ない」と回答していることから（図10）、先生たちにとって座席配置はそれほど重要なことと捉えていないと考えられる。

第4節 研究の限界

本研究ではいくつかの研究の限界がある。先生を対象としたアンケート調査においてはサンプルサイズが十分でなく、統計を取ることが困難であった。そのため、先生側の知見を十分に得られなかった。また、アンケート調査を実施した小学校が全て近隣地域に位置していたため、地域差の影響を考慮することができなかった。さらに、児童の特性に関する質問8項目において、質問内容が「好きだ」「得意だ」など、児童一人ひとりの解釈に委ねられるものであった可能性がある。そのため、回答にばらつきが生じ、一貫した結果の解釈が困難であった。これらを踏まえ今後の課題として、先生側のサンプルサイズを広げること、より多くの地域でデータを収集すること、質問内容を回答者間で解釈の差異が生じにくいものにするのが挙げられる。これらの課題を解決することで、教室内の座席についてより深い研究ができると考えられる。

第5章 まとめ

本研究の目的は、教室内の座席配置について、先生側と児童側の意見を明らかにすること、児童の座席選好を明らかにすることであった。結果として、3年生はペア型、6年生は独立型を好む傾向が明らかになった。二宮ら⁹⁾の研究結果も踏まえると、座席配置は児童一人ひとりの発達段階を考慮し、そのクラスに合ったものを採用する必要があると言える。また、好きな教科が「ない」児童は後方、逆に嫌いな教科が「ない」児童は前方を好むことが明らかになった。さらに、先生の回答の分析結果からは、3年生ではペア型、6年生では独立型を採用する割合が多いことがわかり、3年生はペア型、6年生は独立型を好む傾向にあるという児童の結果との関連が確認できた。したがって、先生側と児童側の意見に大きな差がないことが示された。先生が児童の座席に関する意見を把握しておくことは、よりよい学習環境の提供につながるだろう。

引用文献

- (1) 文部科学省（2022） 通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について 2024年10月22日閲覧 https://www.mext.go.jp/content/20230524-mext-tokubetu01-000026255_01.pdf
- (2) 文部科学省（2024） 日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査結果 結果の概要 2024年11月5日閲覧 https://www.mext.go.jp/content/20240808-mxt_kyokoku-000037366_3.pdf
- (3) 文部科学省（2009） 第7章 教員のICT活用指導力の向上 2024年11月24日閲覧 https://www.mext.go.jp/content/20240808-mxt_kyokoku-000037366_3.pdf
- (4) 中央教育審議会（2021）「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）2024年11月5日閲覧 https://www.mext.go.jp/content/20210126-mxt_syoto02-000012321_2-4.pdf
- (5) 辻村壮平、上野佳奈子（2010）「教室内音環境が学習効率に及ぼす影響」『日本建築学会系論文集』、第75巻 第653号 pp.561-568
- (6) 柳井悠希、伊香賀俊治、川久保俊（2012）「教室環境の質が児童の体調と集中力に与える影響に関する実態」『日本建築学会系論文集』、第77巻 第676号 pp.533-539
- (7) 高橋大悟、佐藤慎二（2021）「ユニバーサルデザインに基づく教室環境と授業の改善の有用性に関する検討 ―通常の学級に在籍する全児童の集中力向上の実証的な分析を通して―」『植草学園短期大学紀要』、第22号 pp.1-12
- (8) 文部科学省（2003） 子どもたちに求められる学力についての基本的な考え方 2024年11月26日閲覧 https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/attach/1399855.htm
- (9) 二宮玲子、樋口ゆき子、千葉桂子（1987）「成長期男女の体型類型化に関する研究（第1報）―成長期男女の体型変化の様相―」『人間工学』、第24巻 第6号 pp.403-407
- (10) 文部科学省（2008） 指導方法の在り方 2024年12月3日閲覧 https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/attach/1399855.htm
- (11) 國枝幹子、古橋啓介（2006）「児童期における友人関係の発達」『福岡県立大学人間社会学部紀要』、第15巻 第1号 pp.105-118
- (12) 内山三郎（2014）「小学生から大学生までに現れる生まれ月分布の偏り」『岩手大学教育学部研究年報』、第73巻 pp.1-7
- (13) 阿久津洋巳、内山三郎、菅原正和（2007）「生まれた月は性格に影響するか？―性格形成において見逃されていた変数―」『岩手大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要』、第6号 pp.109-115
- (14) 宮本文人、山口勝巳、油谷浩之（1994）「小学校の教室における児童の座席選好と座席位置」『日本建築学会計画系論文集』、第464号 pp.85-94
- (15) 下鶴幸宏、中野正博（2008）「座席による学生の勉学意欲の違いの調査研究」『バイオメディカル・ファジィ・システム学会誌』、第10巻 第2号 pp.149-58

児童用アンケート

教室の座席配置についてのアンケート



じどう
児童のみなさまへ

きょうしつ ざせきはいち
これは、教室内の座席配置についてのアンケートです。

か ともだち み じぶん おも
アンケートに書いたことが友達に見られることはありませんので、自分が思っ

いることをそのまま書いてください。答えたくない質問には、答えなくても

だいじょうぶ きょうりよく ねが
大丈夫です。ご協力をお願いします。

国士舘大学 文学部 教育学科 初等教育コース 朝倉 梨奈

ねん くみ
年 組
(おとこ おんな)
(男 ・ 女)

した え つくえ なら きょうしつ えー ひー しー
下の絵のように机が並べられた3つの教室、AとBとCがあります。

あなたはどの教室で授業を受けたいですか。

3つの教室の中で順位をつけて、右下にある「好きな教室ランキング」に書いてください。



A

せんせい 先生					

B

せんせい 先生					

C

せんせい 先生					

じゅぎょう う きょうしつ
「授業を受けたい教室ランキング」



1位.....

2位.....

3位.....

◎ 1位にその教室を選んだ理由は何ですか。

[

]



◎あなたが1位に選んだ教室の絵を見てください。

その中で、「一番座りたい席」ひとつに赤で○をつけてください。

◎その席を選んだ理由は何ですか。

[]

◎あなたの好きな教科・嫌いな教科は何ですか。

好きな教科 _____ 嫌いな教科 _____

◎あなたの誕生日はいつですか。

月 日



うらにつづく

次の質問にあてはまるものに○をつけて下さい。

① 学校が好きだ

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. 思わない

② 勉強が好きだ

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. 思わない



③ 授業が楽しい

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. 思わない



④ 発表することが得意である

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. 思わない

⑤ 友達が多いほうである

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. 思わない

⑥ 友達とおしゃべりするのが好きだ

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. 思わない

⑦ はずかしがり屋である

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. 思わない

⑧ 元気が良いほうだ

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. 思わない



質問しつもんはこれで終わりです。
ご協力、ありがとうございました！

次の質問について、当てはまるもの○をつけてください。

① 自分にとって理想の座席配置がある。

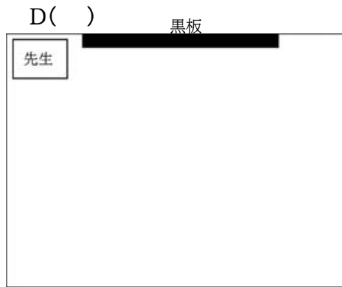
はい・いいえ

② 上記の質問に「はい」と答えた方へ

自分にとって理想の座席配置を下のⅠの図に書き込み、（ ）にそのような座席配置にした理由を書いてください。

「現在の座席配置が理想」という場合には、Ⅱを選択し、○をつけてください。

〈Ⅰ〉



理由

()

〈Ⅱ〉現在の座席配置が理想である。

アンケートは以上になります。
ご協力、ありがとうございました。

謝辞

論文の作成にあたり、まずご指導いただいた河野寛先生に感謝申し上げます。更に、お忙しい中アンケート調査にご協力していただいた教職員並びに児童の皆様にも感謝の意を表します。そして、卒業研究健康の皆様にも相談や意見交換をすることで支えていただきました。本研究においてこれまで関わってくださったすべての方々へ感謝の気持ちと御礼申し上げたく、謝辞に代えさせていただきます。